

～活動の報告と計画～

研修委員会

委員長 桜木こどもの森 岡田博次

今年度も、保育の質の向上と園の「これから」を考える一助になるべく、充実した研修計画を進めて参りますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

新採研修（五月）では、約八十名の参加者が、保育士（所）の使命と役割、SNS利用時の倫理的判断、接遇等について学びました。所長研修会には、吉田学氏（日本保育協会・理事長）をお招きし、子どもを取り巻く現状と今後我々が取り組むべき内容について具体的に講義いただきました。

育児相談研修会では、本年度も有沢考治氏（東海大学・教授）をお招きし、保護者支援について理論と実践を学びました。

年度内に計画中の研修会は次の通りです。

- 民間園長研修会（十一月二十・二十一日）
- 施設長研修会（十二月二十日）
- 新規採用予定職員研修会（二月・各支部）

予算対策委員会

委員長 中里保育園 青野貴芳

周知の通り、今年度から国は配置基準改善の方向に動き出しました。とはいえ、四・五歳児の場合、条件つきでの加算対応にとどまり、

加算要件となる配置の改善幅は僅かで、依然として十分ではありません。一・二歳児の配置改善は早期の実施が見込まれますが、それに合わせて県や市町の補助がなくならなることがないよう注視していく必要があります。

このように、配置基準の改善は、更に進めていく必要があるため、この点を中心に、新たに不適切保育への対応に関する項目を加えて九項目を静岡県に要望します。

- ①職員配置基準について、特に、(1)四・五歳児の配置基準(2)乳幼児保育事業の充実について(3)開所時間や利用児童数に対する配置基準(4)調理員の配置基準(5)延長保育事業への補助について(6)「気になる子」の増加、の観点から改善を要望します。
- ②キャリアアップ研修受講定員数の増加について要望します。
- ③園児数の減少、定員割れへの対応について要望します。
- ④物価高騰への対応について要望します。
- ⑤保育士確保及び定着促進のための環境改善支援策を要望します。
- ⑥年度途中入所サポート事業の継続について要望します。
- ⑦南海トラフ地震等大震災に対する安心・安全な施設の充実が図られるよう要望します。
- ⑧産休等代替職員雇上事業の補助基準額の増額について要望します。
- ⑨不適切保育等事案が発生した際の対応ガイドラインの選定や第三者委員の候補リスト作成を要望します。

保育のしおり編集委員会

委員長 聖心保育園 吉川慶子

「こども家庭庁」の発足、「子ども基本法」の施行など保育を取り巻く社会制度が大きく変わってきました。これを受け「保育のしおり」を六年ぶりに改定することになりました。

この六年の間に静岡県保育連合会の一般社団法人化の実施、県保育士会所属地区保育士会の編成の見直しなどが行われ、改めて県内会員保育施設を取り巻く状況も変化してきています。

前回の改定では保育所保育指針の改定に合わせて見直しを行いました。今回の改定では法規等についても見やすく活用しやすい物になるよう編集作業を進めています。

また、保育の質が改めて問われる時代に即した内容になるよう委員一同作業に努めていきたいと思っております。

キャリアアップ委員会

委員長 聖心保育園 吉川慶子

令和六年度の静岡県保育士等キャリアアップ研修会は昨年度の募集人員をeラーニングも含め五〇〇名増の受入れを確保し実施します。昨年度との大きな違いは参加費の徴収です。会員各位におかれましてはご負担が大き

くなるところではありますがご理解をいただきたくお願いいたします。

毎年、定員を上回る申し込みで多くの方が受講不可となっている現状もあります。受講決定を受けながら全欠席（キャンセル）も昨年度で一四〇名を超えました。多くの方が受講できるような申込時には受講が確実に可能な方を申し込み等ご配慮いただけますようお願いいたします。県保連主催のeラーニングも併せて実施する予定です。

受講された皆様が本来の目的である保育の質の向上につながる研修効果が得られるよう計画させていただきました。引き続きご理解とご協力よろしくをお願いいたします。

実習受入マニュアル作成委員会

委員長 野中こども園 中村章啓

保育士養成課程の中核をなす保育実習の目的は半世紀以上変更されていません。一方で、保育実習を取り巻く環境は大きく変化し続け、それに合わせて保育実習実施基準は度々改正されています。しかしながら実習受入施設たる保育所等では、一部の例外を除けば、担当者の経験則に依存した実習指導が続けられてきた経緯があります。

養成施設では近年「座学と実学の往還」をスローガンに新たな取り組みが次々と導入さ

れています。静岡県保育連合会としても抜本的なアップデートが必須と捉え、この委員会が立ち上げられました。

去る七月九日、第一回委員会が開催され、委員会の運営方針とマニュアルの作成方針が議論されました。九月に開催予定の第二回は、常葉大学保育学部・保育学科長の柴田賢一教授をスパーバイザーに迎え、本格的な編集作業に入ります。年度内の完成を目指し、計四回程度の委員会開催を予定しています。

海外交流委員会

委員長 原町保育園 鶴谷由美子

本年度で第二十六回目となった海外交流研修は、六月二日から六日までの五日間、二十八名で「ベトナム」の保育施設へ視察に行ってきました。実に五年ぶりの海外研修、参加者みんながワクワクしていたように感じました。視察施設先はハノイ市内にある「桜モンテッソーリ子供の家」と「TSUBAKI KINDERGARTEN」を訪問し、保育施設の見学、保育内容や保育制度について意見交換等行い有意義な時間を過ごせました。また今現在の「ベトナム」情勢についても少しですが伺うことができ、これから発展していく国なのだと思います。施設を視察することが

一番の目的ですが、町の様子や人々の生活を見ながら五感で感じたことは帰国してからより自国を見つめ直すきっかけにもなるのだと思います。来年度も引き続き海外交流研修を実施する予定ですので多くの皆さまのご参加を期待しています。

少子化対策委員会

委員長 原町保育園 鶴谷由美子

静岡県の皆さまに、子育て支援への関心と理解を求める啓発活動を行った場合の経費を助成する「子育て支援啓発活動事業助成金制度」を実施しています。複数の施設や団体で行う事業であれば、一事業五万円を助成しますので啓発活動にご活用下さい。助成金の申し込みは各支部事務局となります。

昨年度も東部・中部・西部でこの助成金を活用した地域子育て活動の展開を推進していただきました。また、財源となります協力金へのご支援を賜りまして感謝申し上げます。本年度も啓発品として「あいあいホットマーク」のクリアファイル、ピンバッチ、付箋などがあります。クリアファイルはデザインも一新しておりますので昨年同様皆様のご協力をよろしくお願いいたします。